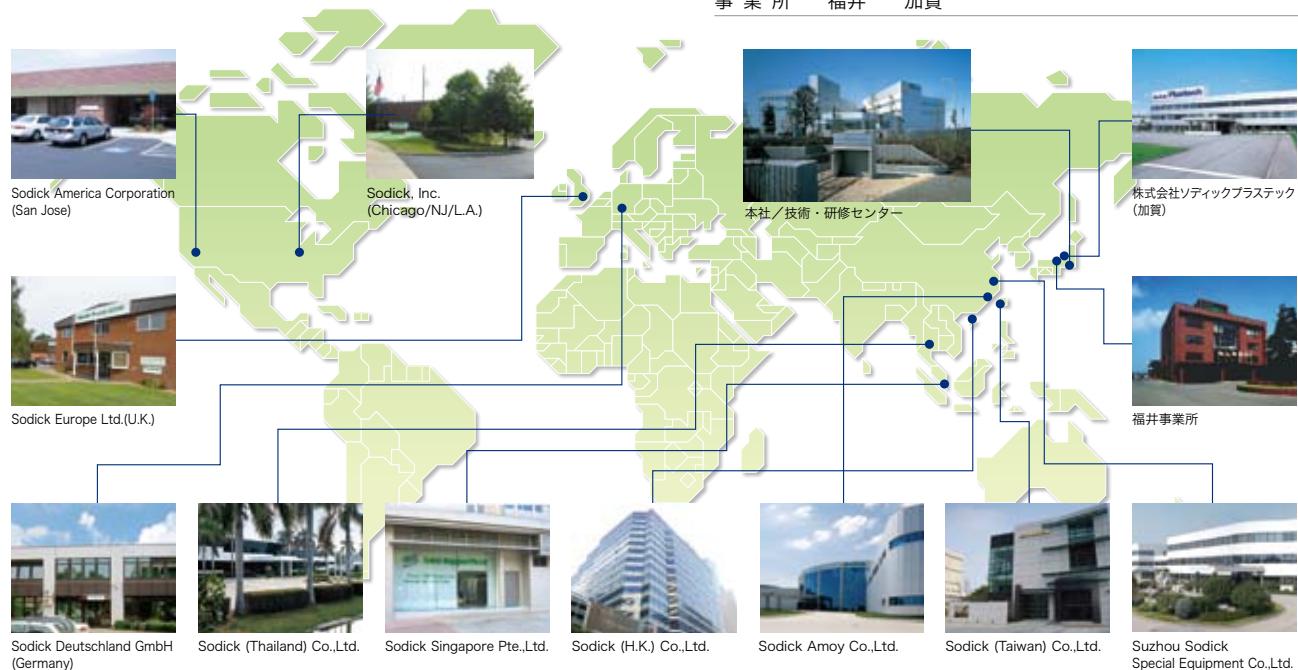


世界の主要拠点 (平成22年3月31日現在)

国内

本 社	横 濱				
営業拠点	仙 台 松 本	太 田 静 岡	大 宮(さいたま) 名 古 屋	東 関 東(柏) 岡 山	福 井 福 岡
事 業 所	福 井	加 賀			



**Sodick**  
株式会社 ソディック

〒224-8522  
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号  
TEL: 045-942-3111  
FAX: 045-943-5835  
(証券コード: 6143)



●このカタログは FSC 森林認証用紙と大豆インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。  
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス [ir@sodick.co.jp](mailto:ir@sodick.co.jp)



モバイルサイトのご案内

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を  
随時更新しています。



第34期  
事業報告書 平成21年4月1日～平成22年3月31日

**Sodick**

Business  
Report



株式会社 ソディック

## Sodick Corporate Highlights 2009.11-2010.6

## 展示会 INTERMOLD2010に出展

4月14日～17日にかけてインテックス大阪（大阪市）で開催された、INTERMOLD2010（第21回金型加工技術展）に出展いたしました。INTERMOLDは金属加工技術の専門展で、東京と大阪で交互に開催されており、今年は大阪で開催されました。大阪には樹脂の成形品メーカーが多く、大手のLEDメーカーもあることから、今回の展示ではLEDの各製造工程における、ソディックグループの放電加工機や射出成形機の高い貢献度をアピールいたしました。当社ブースには大手メーカー、部品サプライヤーなどを中心に数多くの方々にご来場いただき、盛況となりました。



## 新製品 IPMモータの外販開始

ソディックグループは、放電加工機に革命を起こしたリアモータを始め自社開発の優れた要素技術を有しております。この度、自社製のネオジウム磁石を用いた独自のIPMモータを開発し、廈門工場での生産を開始いたしました。IPMモータは内部に磁石を埋め込んだ構造をもち、高効率・省エネ・高トルクなどの特長を備えています。そのためエアコン、ハイブリッド自動車などで利用が広がっており、市場規模は拡大しています。当社グループでは、工作機械・産業機械向けにIPMモータを販売し、収益力の強化に努めます。



## 新事業 LED照明事業を開始

当社は、LED照明事業を展開する株式会社クリアー（株式会社クリアーソディックに商号変更、以下「クリアーソディック社」）に出資し、新たにLED照明事業を開始いたします。LED照明に関して高度な技術力を有するクリアーソディック社に対し、当社の高い生産技術力と人材および資金を提供することにより、社会に貢献できるLED照明事業を展開いたします。

今後もソディックグループは、更なる成長を目指し、LED照明事業を中心とした環境事業で省エネ・エコ・グリーンイノベーションに貢献いたします。



## 【株式会社クリアーソディックの概要】

代表者：代表取締役社長 宮本和則  
 資本金：1億8,090万円(増資後)  
 事業内容：LED照明の開発・製造・販売  
 所在地：東京都中央区八丁堀3丁目13番1号

## 未来を創る

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第34期がどのような年だったか考えてみますと、世界同時不況という逆境の中、今期飛躍するための種をまき続けた一年だったように思えます。

当期の経営環境は、上半期においては製造業、特に金型向けの設備投資は世界的に停滞しておりましたが、下半期に入ってから中国など一部の国や地域で設備投資に回復の動きが始め、徐々に回復基調で推移しました。また、子会社の株式会社ソディックプラスチックの射出成形機の需要は、自動車関連向けが低調に推移する一方、環境負荷の低さで注目度の高まるLED関連製品向けは好調に推移するなど、中国経済とエコロジー分野の将来性を実感いたしました。

このような経営環境の中、当社グループは主要な子会社であった株式会社ソディックハイテックの吸収合併、事業所の統廃合、経費の削減、希望退職者の募集とあらゆる手立てを駆使して、業績の回復に努めてまいりました。しかしながら、上半期の落ち込みを取り戻すまでには及ばず、第34期の業績は、主要な事業である工作機械事業や産業機械事業が大幅な減収・減益となり、連結売上高は367億61百万円、連結営業損失は26億88百万円となりました。

なお、当期末の配当につきましては、通期業績と今後の経営環境等を勘案し、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。株主の皆様には誠に申し訳なく、衷心よりお詫び申し上げます。また、今期の配当につきましては、経営環境に不透明な要素の多いことから、現時点では未定とさせていただきます。

景気が底を打ったと思われる今期こそ正念場だと考えております。今期は黒字化を実現するため社員一同一丸となって、ソディックグループの企業価値向上に向かって粉骨砕身、業務に取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、何卒ご理解とご支援をお願い申し上げます。



代表取締役社長 藤原克英

## CONTENTS

Sodick Corporate Highlights	1
株主の皆様へ	2
当期の業績	3-4
特集：新たなソディックグループへ	5-6

連結財務諸表（要旨）	7-8
株式情報／株式分布／会社概要／役員	9
株主メモ	10

当期の概況

当連結会計年度のわが国経済は、中華圏を中心としたアジア地域への輸出増加や政府による景気刺激策の効果もあり景気の悪化には歯止めがかかったものの、デフレや円高の進行により企業の業績回復は遅れ、個人消費も引き続き低迷し、雇用情勢も厳しさを増すなど景気の先行きは不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、主要な取引先である金型業界の設備投資は依然として抑制傾向にあり、引き続き予断を許さぬ状況が継続しました。

このような状況の中、当社グループは主要な子会社である株式会社ソディックハイテックの吸収合併をはじめ、事業拠点の移転や統廃合、人員配置の見直し、経費削減の徹底などあらゆる経営合理化策を推進するとともに、今後の成長が期待できる新興市場向け製品の開発に努めるなど、景気回復後に向けた活動にも注力しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比177億71百万円減(32.6%減)の367億61百万円となりました。また利益面では、営業損失は26億88百万円(前年同期は営業損失25億12百万円)、経常損失は30億73百万円(前年同期は経常損失57億17百万円)、当期純損失は36億69百万円(前年同期は当期純損失85億27百万円)となりました。

次期の見通し

今後の見通しにつきましては、世界同時不況の影響からいち早く回復し、高い成長率を維持する中国、インドやブラジルなどの新興国経済も改善傾向にあることから、外需による景気の下支えが期待され、わが国の経済は好転するものと思われま。しかしながら企業の設備投資、個人消費ともに急回復が見込めないこと、厳しい雇用情勢も継続することが想定されることもあり、経営環境は弱含みの回復基調で推移することが予想されます。

このような環境の下、当社グループは引き続き徹底した経費の削減に努めるとともに、今後成長の期待できる新興国への展開や新規事業を推進します。特に中国においては携帯電話やネットワークなどの精密電子機器、自動車の電装部品の製造設備など、当社グループの製品需要は大いに見込めます。このような好調な国や地域へ柔軟な対応ができるよう、グローバルな販売体制を構築し、収益基盤の改善に努め、平成23年3月期の黒字化を目指します。

平成23年3月期の当社グループの業績は、連結売上高445億円(前期比21.1%増)、連結営業利益12億円、連結経常利益7億40百万円、連結当期純利益3億15百万円と予想しております。

※上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート93円、対ユーロ期中平均レートは125円です。

連結業績ハイライト



セグメント別概況

工作機械事業

売上高構成比

61.5%



放電加工機、精密切削加工機の機械販売は、金型業界をはじめとした顧客の設備投資需要は、上半期においては低調に推移しましたが、中国の景気回復などもあり下半期以降は回復基調で推移しました。このような状況の中、生産調整を行い在庫の適正化に努めつつ、ワイヤ放電加工機で使用するワイヤ線など安定した需要が期待できる消耗品販売を鋭意進め、売上の増加に注力いたしました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比132億43百万円減(36.9%減)の226億31百万円となりました。

産業機械事業

売上高構成比

22.1%



当事業の主力製品である小型精密射出成形機は、LED製品向けの設備投資需要など一部の分野では旺盛でしたが、全体としては低調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比40億61百万円減(33.3%減)の81億42百万円となりました。

精密金型・精密成形事業

売上高構成比

10.1%



精密金型・精密成形品の製造販売においては、ハイブリッド車の販売が好況だったこともあり、自動車向け精密コネクタの受注が増加し、当事業は好調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比16百万円増(0.5%増)の37億24百万円となりました。

食品機械事業

売上高構成比

5.6%

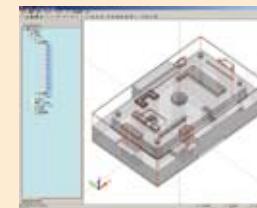


食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。麺製造プラントの受注状況は良好でした。また、受注案件の一部で、新規の開発が必要になるなどコストアップ要因が多く発生しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比48百万円増(2.4%増)の20億67百万円となりました。

その他の事業

売上高構成比

0.7%



当事業は大型ファインセラミックスの製造販売および金型生産統合システムの販売を行っておりますが、液晶パネルの検査装置向けのファインセラミックスの需要は低調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比6億2百万円減(66.7%減)の3億円となりました。

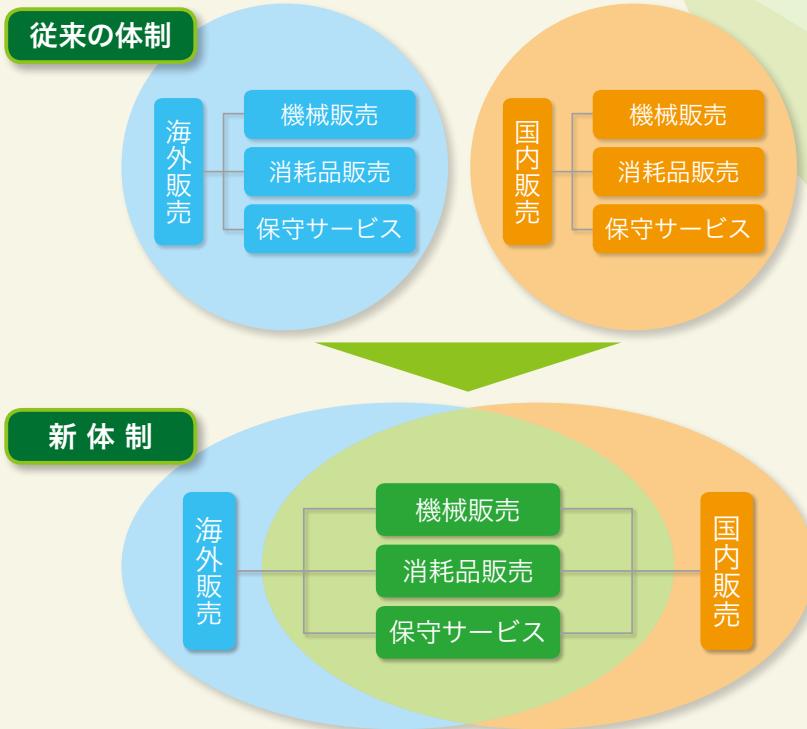
# 特集：新たなソディックグループへ ソディックグループの新体制について

## 市場環境の変化とそれに応じた経営へ舵をきる

2009年の日本の工作機械生産額は、前年比56.5%減の58億8890万ドルとなり、1982年以来維持してきた生産額世界一の座を中国に譲り渡すこととなりました。今後、工作機械市場の中心が従来の先進工業国から中国などを中心とした新興国にシフトする流れが継続することは確実です。ソディックグループでは、国内市場の成熟、海外市場の成長に適応するため組織の再編など抜本的な対策をとってきました。ここでは株主様のご期待にお応えする新たなソディックグループの姿についてご紹介いたします。

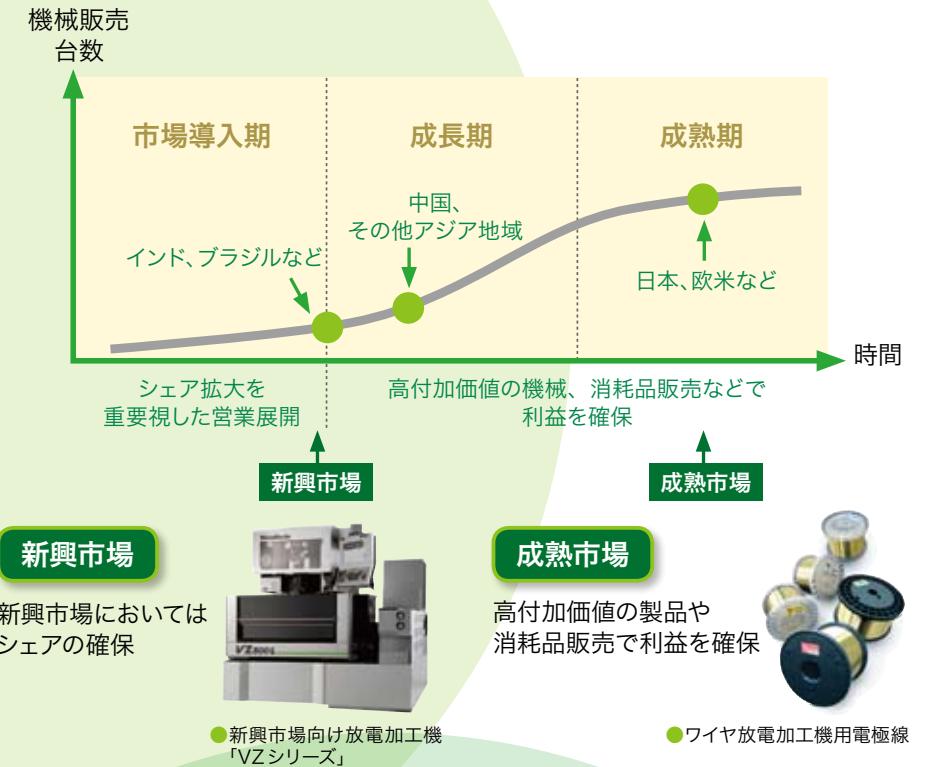
## 1 グローバル販売体制の強化

日本国内の工作機械売上高は、中華圏などの海外市場が急成長したことによって、比重は小さくなっています。今後インドやブラジルなどの新興国の工作機械市場も伸張することから、工作機械市場の一層のグローバル化が進展することは間違いないと思われます。ソディックグループは、グローバルな販売体制を構築し、地域・商品間の垣根を越えて柔軟に対応いたします。



## 2 市場のタイプに応じた販売戦略

これからの工作機械市場は、日本など先進工業国の「成熟市場」とBRICsやVISTAなどの「新興市場」の二分化が進んでいくと思われます。それぞれの市場の成長性、求められる機械の種類や販売価格は大きく異なります。成熟市場では高付加価値の製品や消耗品販売で利益を確保し、新興市場においてはシェアの確保に努めてまいります。



## アモイ 廈門工場の活用

廈門工場のコスト競争力を活かすため、放電加工機だけでなく射出成形機、食品機械など幅広く生産



● 中国市場向け射出成形機「CA100L」

## 開発スピードの向上

大規模市場の中国にあるメリットを活かし、ニーズを反映したすばやい製品開発

## アモイ 廈門工場の活用と開発スピードの向上

新興市場においては、機能を必要最小限に絞りこんだ使いやすく廉価な工作機械が求められています。また、新興国の産業の成長や展開は非常に早いため、市場に求められる製品の開発スピードも従来以上に上げねばなりません。このような環境に対してソディックグループは、コスト競争力が強く、優秀な人材の確保にも適している中国・廈門の工場での生産を強化し、今後のソディックグループの開発戦略の軸に据えてまいります。

Point

流動資産

流動資産は、前連結会計年度末比91億41百万円減の421億56百万円となりました。経営改善計画の一環として、債権の回収やたな卸資産の圧縮に努め、その効果が表れた結果となりました。

固定資産

固定資産は、前連結会計年度末比24億42百万円減の306億11百万円となりました。当期は先行き不透明感の強い経済環境だったため新規の設備投資を抑制した結果、償却額が投資額を上回り、固定資産は減少いたしました。

負債の部

負債は、前連結会計年度末比80億30百万円減の489億19百万円となりました。経営改善計画の一環として有利子負債の圧縮に努め、短期借入金が前連結会計年度末比64億26百万円減少したことや、社債が償還により前連結会計年度末比24億34百万円減少したことが、主だった負債の減少要因です。

連結貸借対照表

科目	期別	前期(33期) 平成21年 3月31日現在	当期(34期) 平成22年 3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産		51,297	42,156
固定資産		33,053	30,611
有形固定資産		25,649	23,786
無形固定資産		3,507	2,743
投資その他の資産		3,897	4,081
<b>資産合計</b>		<b>84,351</b>	<b>72,767</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債		42,809	36,781
固定負債		14,140	12,137
<b>負債合計</b>		<b>56,950</b>	<b>48,919</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本		27,288	23,599
資本金		20,775	20,775
資本剰余金		6,949	6,949
利益剰余金		1,698	△ 1,990
自己株式		△ 2,135	△ 2,135
評価・換算差額等		△ 1,721	△ 1,341
新株予約権		71	24
少数株主持分		1,762	1,566
<b>純資産合計</b>		<b>27,401</b>	<b>23,848</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>84,351</b>	<b>72,767</b>

連結損益計算書

科目	期別	前期(33期) 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	当期(34期) 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
売上高		54,533	36,761
売上総利益		15,090	8,887
営業損失(△)		△ 2,512	△ 2,688
経常損失(△)		△ 5,717	△ 3,073
税金等調整前当期純損失(△)		△ 6,914	△ 3,422
当期純損失(△)		△ 8,527	△ 3,669

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前期(33期) 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	当期(34期) 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,935	7,256
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 7,088	△ 693
財務活動によるキャッシュ・フロー		4,605	△ 9,437
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 747	△ 15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 1,295	△ 2,891
現金及び現金同等物の期首残高		19,781	18,693
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		207	2
現金及び現金同等物の期末残高		18,693	15,804

Point

営業損失

営業損失は、前年同期比1億76百万円増の26億88百万円となりました。企業の設備投資需要の減退に伴い、売上総利益が前年同期比で62億2百万円減少しましたが、人件費をはじめとした経費の削減を徹底させた結果、ほぼ前年同期並みの損失額となりました。

当期純損失

純損失は、前年同期比48億58百万円減の36億69百万円となりました。当期においては為替差益が69百万円となり、前期の為替差損22億44百万円から大きく変動したことや、経営合理化のための諸費用として事業構造改善費用を6億22百万円を計上したことが、主な変動要因です。

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比53億21百万円増の72億56百万円となりました。たな卸資産と売掛債権の減少に努めた結果、大幅な増加要因となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比63億95百万円減少の△6億93百万円となりました。新規の設備投資を抑制し、設備の更新投資が中心だったため、減少いたしました。財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比140億42百万円減少の△94億37百万円となりました。主だった支出としては、短期借入金の返済による支出64億62百万円、社債の償還による支出24億34百万円、長期借入金の返済による支出24億66百万円によるものです。

## 株式情報 (平成22年3月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	16,350人

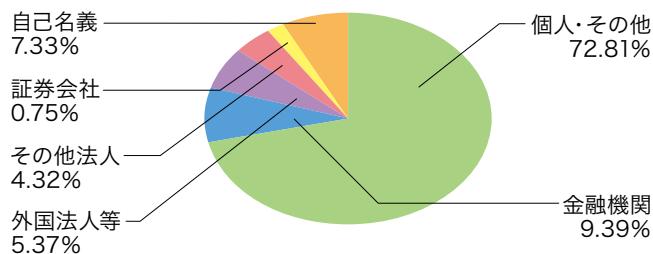
## 大株主 (平成22年3月31日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,920,587	7.33%
古川 利彦	2,345,975	4.39%
大村 日出雄	1,045,400	1.95%
ノザトラストカパニ- (エイブエツ)- サアアカウントアメリカクライアント	944,200	1.76%
ソディック共栄持株会	880,900	1.64%
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	739,000	1.38%
鈴木 正昭	726,260	1.35%
株式会社北陸銀行	700,000	1.31%
ソディック従業員持株会	541,170	1.01%

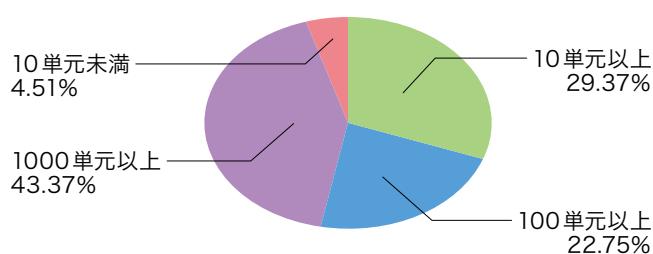
## 会社概要 (平成22年3月31日現在)

会社名	株式会社ソディック
所在地	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111 (代表)
設立	昭和51年8月3日
資本金	207億7,575万6,958円
代表者	藤原 克英
従業員数	289人 (連結2,575人)
連結子会社	27社
営業品目	NC形彫り放電加工機 / NCワイヤ放電加工機 / NC細穴放電加工機 / 特殊放電加工機および専用機 (パレットチェンジャ、ロボットなど) / 数値制御電源装置 / 放電加工機専用治具 / ハイスピードミーリングセンタ / ナノ加工機 / 生産統合システム / 精密射出成形機 / 工業用セラミック / 産業機械向けリニアモータ / その他電気加工装置 / 放電加工機用ワイヤ線 / 精密金型・精密成形品 / 電子部材 / 各種ソフトウェア / 食品機械 / 委託研究および製品開発 / その他

## 所有者別株式分布状況 (平成22年3月31日現在)



## 所有株式数別株式分布状況 (平成22年3月31日現在)



## 役員 (平成22年6月29日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
代表取締役社長	藤原 克英
取締役副社長	保坂 昭夫
専務取締役 (営業統括担当)	高木 圭介
専務取締役 (商品技術担当)	金子 雄二
常務取締役 (営業本部長)	松井 孝
常務取締役 (カスタマーエンジニアリング本部長)	唐戸 幸作
常務取締役 (総合企画本部長)	古川 健一
取締役 (欧米地区営業担当)	久保 光宏
取締役 (生産本部長)	岡崎 秀二
取締役 (国内営業統括部長)	島田 幸徳
取締役 (研究開発本部長)	原田 武則
取締役	鈴木 正昭
常勤監査役	楠 左衛治
監査役 (非常勤)	小山 秋吉
監査役 (非常勤)	大木 國男
監査役 (非常勤)	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男および下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.sodick.co.jp/ir-f.html">http://www.sodick.co.jp/ir-f.html</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

### 【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（みずほ信託銀行）ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 【株式に関するお手続きについて】

### ○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

### ○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取（買増）請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定（*）	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufig.jp/daikou/">http://www.tr.mufig.jp/daikou/</a>
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)

（\*）特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。